

中学生の女の子を迎え入れて

(養育里母さん体験談)

今年に入ってから、中学生の女の子Aちゃんを預らせてもらっています。

【委託の打診から受託まで】

中学生の受け入れということで「ハードルは高くありませんでしたか？」と聞かれたことがあります。以前、初めてお預かりしたお子さんも中学生の女の子でした。そして、軽度の知的障害があるということで、当時、夫とばあちゃん（夫の母）は受け入れすることを悩んでいました。

私は仕事の関係で障がいのある子どもと接する機会があり「だいじょうぶ、なんとかなるさ」の精神で、夫とばあちゃんを説得しました。いざ受け入れて生活が始まると、「なんて穏やかな子なんだろう」と、夫もばあちゃんもすぐにこの子が大好きになりました。その経験があったので、今回の委託の打診があったときも、家族全員、すぐにOKでした。

【Aちゃんを迎え入れて】

1 人目の里子が家庭復帰をし、委託解除になってからしばらくは、夫とばあちゃんと私、大人3人の静かな生活でしたが、Aちゃんを迎え入れてからは生活が一変。賑やかで大忙しの毎日になりました。

Aちゃんとの生活の中では、楽しいことと同じくらい困ることやムツとすることがあります。最近ムツとしたのは、朝ごはんの時でした。卵焼きを焼いて、ウィンナーを焼いて、ごはんをよそって、みそ汁を作って・・・と、支度が整った頃に、少しキッチンを離れて戻ってくると、Aちゃんが私の作った朝食を食べないで、フルーツグラノーラを食べていたのです。

しかし、Aちゃんのこれまでの生活を考えれば仕方ありません。Aちゃんは家族で食卓を囲むという経験の少ない子どもでした。自分の食べたいものを食べたいタイミングで食べただけ食べて大きくなってきたそうです。そういった背景もあり、夫がAちゃんに「自分のためにしてもらったことには、感謝することが大切だよ」と、Aちゃんにわかりやすく伝えてくれ、私が仕事から帰ると玄関で待っていたAちゃんは、泣きながら「おばちゃん、ごめんね」と言ってくれました。こうした小さいトラブルを丁寧に解決していくことで、今、少しずつ関係を築いています。



【夫婦の役割】

Aちゃんは夫と気が合うようで、夫にくっつきばなしです。私が家庭でいう叱り役、父親役。夫が優しい役、母親役となっていて、こっそりマックを食べたいときは夫に、集金やなんかがあると私のところに・・・という感じで、Aちゃんなりに大人を使い分けているなと感じます。

こちらも、夫婦で毎日振り返って話をする中で、今はこの関係が良いねということになり、このような役割分担で対応しています。

【生活の中で】

生活の中での歩み寄り、他にもあります。

Aちゃんが「あれがほしい、これがほしい。友達の家はベンツだ、お金持ちだ」と言ってきたことがありました。その時は「うちはお金持ちじゃない。お給料は月に1度しかないんだよ」と、計画的にお金を使ったり貯めたりしないといけないことを丁寧に伝えました。そのかいがあって、Aちゃんは「じゃあまた今度でいいよ」「お金がたまってからにするね」と言うようになりました。

また、一緒に自転車を買に行き、お金を払うところも見せて、大事に乗るように話しました。すると、雨で自転車が濡れたときにティッシュで丁寧に拭いていて・・・「大切にする気持ちは嬉しいが、雑巾で拭いてくれんかなー」となかなか一筋縄ではいきません(笑)。今は、雨のあたらない納屋にしっかり入れてもらっています。

先日はAちゃんが「イオンに行きたい」と要望がありましたが、その日は都合が悪く行けませんでした。そんな時も「いつならいい?」「この日ならいいよ」と話し合い、それまでに買うものを決めたり、つけているお小遣い帳をみて、ほしいもののためにお金をためたりしています。



Aちゃんと一緒に生活する上では里親として背伸びをしないように、小さなことでも一緒に相談しながらマイペースでゆっくり生活していこうと思っています。

【周囲への告知について】

Aちゃんが友達に「里親の家にいる」ということを隠している様子なので、(もちろん、言いにくい事ですから、あたりまえなのですが)友達と遊ぶ時や登下校の時、家族の話になる時など、苦しいだろうなと思っています。今後、どうケアしていけばよいか、夫婦で考え中の難問です。

自分達が里親をしていることを知っているお宅に、一緒に挨拶に行ってきたのですが、自分が里子だということを知らない大人に対しては、Aちゃんもとてもリラックスできている様子でした。周りの人に知ってもらうということはAちゃん自身にとって、生活しやすくなる大切なことだと思います。

いつか家に友だちを呼びたいというAちゃんのために、しっかり対応したいと思っています。

【高齢児の受け入れにあたって】

中高生の受け入れに躊躇される方や敬遠される方がおられるのは、高齢児だと人格が形成されていることへの不安が大きいのかなと思います。けれど、皆がそうではありません。今受け入れているAちゃんは、情緒面ではまだ幼く、中学生だけど、心は小学生の低学年くらいです。かまってもらったり、相手してもらったりした経験が少なすぎて、自分をアピールすることに精一杯です。こちょこちょで身体をよじって喜ぶ中学2年生なのです。ですので、中学生でも決してハードルは高くない子どももいます。

この子が手元を離れたら、小学生や中学生、高校生の受け入れも、チャレンジ精神で頑張っていきたいと思っています。

